

『水都おおさか森林の市 2018』に参加しました

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター 近畿北陸整備局

10月28日（日）、林野庁近畿中国森林管理局および毛馬桜之宮公園（大阪府大阪市）で『水都おおさか森林の市 2018』が開催されました。

大阪市は、江戸時代以降「水の都」と呼ばれ、琵琶湖の水の恩恵を受けて発達した水路を利用した交易により発展してきました。琵琶湖の豊かな水を支えてきたのは森林であり、森林は農山村地域に住む人々の手で守られてきました。「森林の市」は、森林の恵みや木に触れることで、森林と人とのつながりを実感し、森林・林業・木材産業の果たす役割や木材利用の意義、農山村の現状について理解を深め、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目指しています。

近畿北陸整備局（大阪府大阪市）は、森林研究・整備機構の一員として、「森林総合研究所関西支所」「森林総合研究所林木育種センター関西育種場」と一緒に『水都おおさか森林の市 2018』に参加しました。

開会式には、ミスみどりの女神も来場され、来場者は主催者発表で3万人！森林整備センターのブースにも約500名の来場者がいました。

近畿北陸整備局のブースでは、事業のパネル及び事業地の写真を展示し、水源林造成事業のPRを行うとともに、丸太切り・木の漢字当てクイズ・人形作り（どんぐり、松ぼっくり、コースター）なども行い、多くの方に来場していただきました。

丸太切りコーナーでは、「丸太をのこぎりで切る」という単純作業ですが、皆さん張り切って楽しんでいるよう見受けられました。中には一人で5回以上丸太切りに参加する子供もいました。



開会式の様子



丸太切りコーナー



木の漢字あてクイズコーナー



人形作りコーナー

木の漢字当てクイズでは、最初、2～3人の参加者で開始しますが、通りすがりの方々が追加参戦して最後は団体戦(7～8人)になることもあり、数多くの方にチャレンジしていただきました。

人形作りのブースでは、小さいお子さんを中心に、ご家族やグループでの参加が多く、席が足りなくなる状況もありました。

近畿北陸整備局では、今後も各種イベントを通して、森林の整備の大切さ、水源林造成事業の重要性をPRしてまいります。